

# 支援部だより

今回のテーマは【聞こえてる?】



難聴児にとっての補聴器や人工内耳は、聞こえを助けてくれる万能なアイテムとっていませんか？ もちろん、付けないよりは付けた方がずーっといい。でも、「万能」ではないのです！

そこで、今回のテーマは「聞こえている？ 分かった？」です。

## ●人工内耳装用者 あるいは 中等度難聴者の聞こえ方

聞き取りやすい場面	聞き取りづらい場面
<ul style="list-style-type: none"><li>・静かなところ</li><li>・親兄弟のようによく話す人</li><li>・聞き取りやすい音域の声の人</li><li>・よく知っている言葉</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・騒がしいところ</li><li>・普段話さない人や初対面の人</li><li>・集団での会話</li><li>・早口で話したり、もごもご話す人</li><li>・知らない言葉</li></ul>

家では、口元も見えていないし、ほとんど耳から聞いて言葉が分かっている、家族となら電話もできる。問題ないよ……本当にそうでしょうか？

## ●実際のところを大人になった難聴者に問いかけてみると…(小・中・高校では)



- ・ついついみんな早口になっている → ついていけないよ
- ・黒板に向かって書きながら話すことも → 何を言っている？ 分からない
- ・よく分からないけどみんなが笑った → とりあえず私も笑ってみる
- ・みんなが手を上げている → 自分も手を上げるけど当てられたらどうしよう
- ・「分かった？」ってきかれた → 「分かった？」って言われたことは分かったよ

もちろん実態は個々で違い、問いかけへの質問の答えもまちまちです。でも、この結果を見て驚きませんか？

特に、最後の「わかった？」という問いかけは、「きこえた？」という問いかけにも通じますが、どう聞こえているのか、どう理解しているのか確認することの必要性を感じます。

どんな質問だった？

なんて言われたの？



料理しながら、テレビ見ながら、運転しながら話しかける時、もしかしたら言葉の端っこだけをとらえているかもしれません。

まわりのちょっとした工夫があれば、また一つ難聴児にわかりやすい環境を作ることができます。家庭の中で、学校の中で、街の中で 少しでも工夫したり確かめたりしてみませんか。